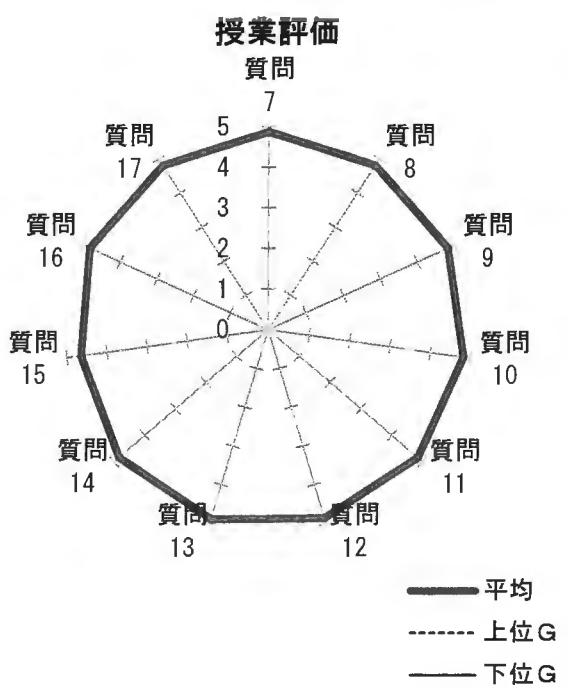


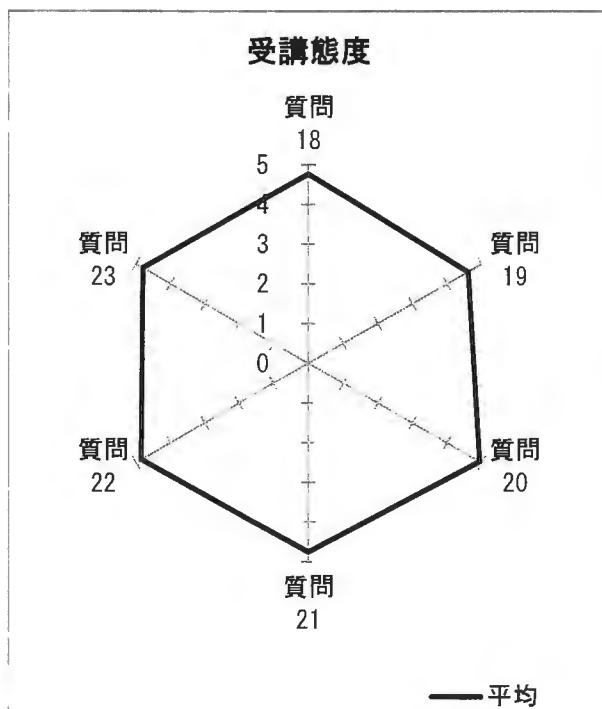
科目コード 910 (2017年度 前期)

看護学部 看護学科 霧岡 イツ子 基礎看護技術Ⅱ



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.9	4.9	#DIV/0!
質問 8	4.8	4.8	#DIV/0!
質問 9	4.8	4.8	#DIV/0!
質問10	4.8	4.8	#DIV/0!
質問11	4.8	4.8	#DIV/0!
質問12	4.9	4.9	#DIV/0!
質問13	4.9	4.9	#DIV/0!
質問14	4.8	4.8	#DIV/0!
質問15	4.6	4.6	#DIV/0!
質問16	4.8	4.8	#DIV/0!
質問17	4.8	4.8	#DIV/0!
平均	4.8	4.8	#DIV/0!

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.8
質問19	4.6
質問20	4.9
質問21	4.8
質問22	4.9
質問23	4.8
平均	4.8

- 質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
看護	看護	鶴岡イツ子	基礎看護技術Ⅱ	77名

2017年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

基礎看護学領域の教員は、昨年（2016）、全教員新メンバーでの構成であった。また、昨年度のシラバスについては、一昨年度の計画（2015年度、退職した教員が作成）を実施した。そして、実施するなかで、さまざまな教育方法の相違点を感じ、実施しながら多くの点に修正を加えざるをえなかった。

そこで、本年度（2017）は、看護学科1年次の教育目標及びシラバスに関して、幾度となく領域会議を開き勉強会を含めて作成した。基礎看護学領域は、1年次・2年次学生への教育が主であり、土台づくりであることを常に意識して取り組むことである。

なかでも、基礎看護技術Ⅱは初学者である学生への「何を学ぶかという意識付け」を担っていると考えている。そのような位置づけにおいて、「授業内容の理解」「授業内容への興味」「板書・スライドなどの効果的利用」「工夫」「質問への対応」に意識して、取り組んできた。新しい単元において、教員間の意見交換や内容へのアドバイスの授受を何度も行ってきた。何よりも、学生が、真面目に、積極的な態度で授業・演習へ参加してくれていたことに支えられていたと感じている。

アンケート結果では、質問7は丁寧に取り組んでいたことへの評価といえる。質問12と質問13は私語などがあった場合に私語学生への直接的な質問ではなく、他学生へ質問することで、自然に参加している環境を意識したことへの評価と考える。また、質問13では、授業中の質問は少数であって、レスポンスカードからの質問も最初のうちは少なかったものの、質問への回答に関して教員は「しっかり調べたこと」「努力して解答している姿」を表現したところ、多くの学生が質問を書いてくるようになった。しかし、授業時間内において説明出来る場合はいいとしても、答える時間が設けられない場合は、スライドにて配布した。このようなやり取りを繰り返し行った。

今回の、授業評価アンケートでは、教員の熱意を伝えることは、学生の満足度を押し上げるものであると実感できた。

II. 2018年度に向けての取り組み

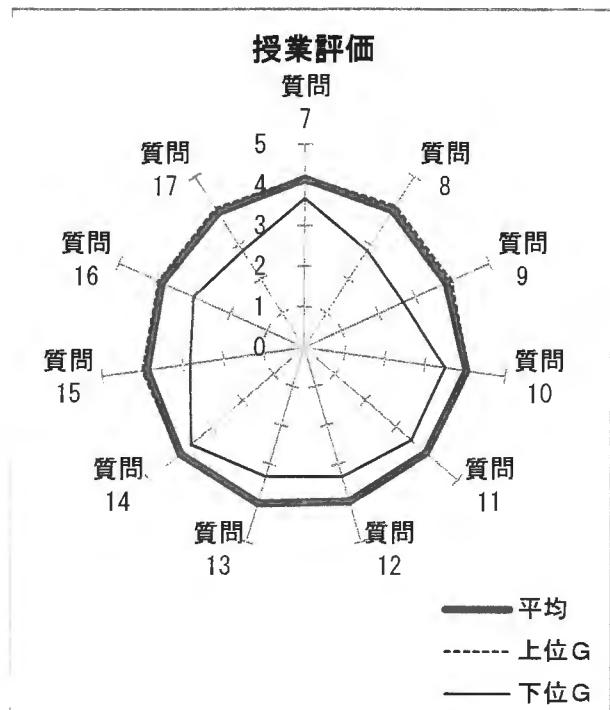
2018年度担当予定科目名：_____

（同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。）

今後は、質問14の工夫をしなければならない。それは、質問15と関連しているからであり、特に、看護学において「自分は、授業を理解できた」と思っていないからである。つまり、学生が理解できるために、学生個々の理解度の評価をしていかなければならない。例えば、小テスト等を実施する等が必要である。

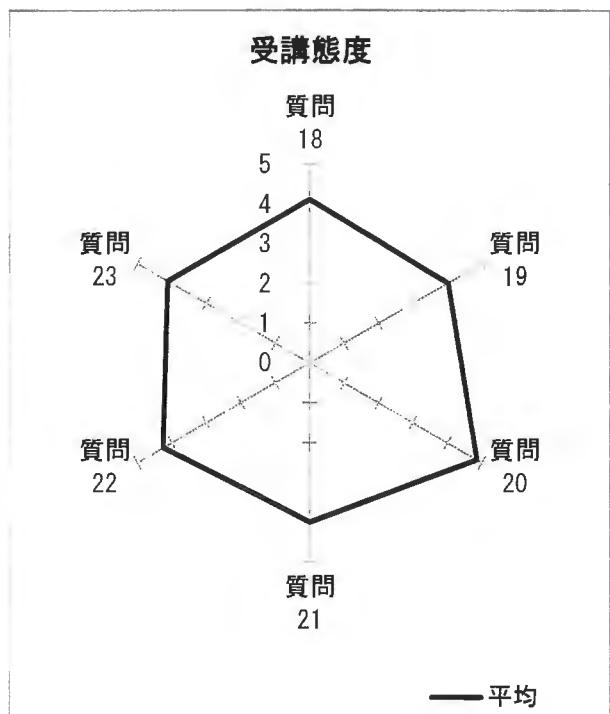
科目コード 917 (2017年度 前期)

看護学部 看護学科 濱里 セツ子 健康教育学



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.2	4.2	3.7
質問 8	4.0	4.1	2.8
質問 9	3.8	4.0	2.7
質問10	4.0	4.1	3.5
質問11	4.0	4.0	3.5
質問12	4.0	4.0	3.3
質問13	4.0	4.1	3.3
質問14	4.0	4.1	3.7
質問15	3.9	4.0	2.8
質問16	3.8	3.9	3.0
質問17	3.9	4.1	2.8
平均	4.0	4.1	3.2

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.1
質問19	4.0
質問20	4.8
質問21	4.0
質問22	4.3
質問23	4.1
平均	4.2

- 質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
看護学部	看護学科	濱里セツ子	健康教育学	75

2017年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

授業は、保健行動に関する理論の解説、健康教育の展開を行った。

授業評価は平均4.0点、上位G平均4.1点、下位G平均3.2点だった。評価点の低い項目は質問9「教員の話し方」と質問16「授業は興味・関心・意欲を引き出したか」平均3.8点、質問15「(自分は)授業を理解できたと思うか」と質問17「新しい知識・技術・理論等の習得への有用性」が平均3.9点であった。

理論についての授業は、学生が初めて聞く専門用語が多かったこともあり、話し方、説明の仕方に工夫が必要である。

健康教育の展開では、自己学習、健康教育指導案作成、媒体作成、教育実施のプロセスを6~7名のグループ学習で進めた。内容は、健康な大学生を対象とした生活習慣（睡眠・運動・栄養）について、学生の身近な健康問題をとりあげて健康教育の展開を行った。対象学生は2年生の前期の科目であり、医学的な知識を応用し、支援対象者の個別性に応じた健康教育を展開することは難しいと考えるが、学生が臨床で応用することを意識できるよう工夫することで、授業への興味・関心、新しい知識・技術・理論等の習得への有用性につながると考える。

教員は前期に講義科目が多く実習指導もあることから、健康教育学では教員1名で12グループの指導にあたった。グループ記録やレスポンスカードをとおして学生個々およびグループの学習状況を確認しながら進めていったが、充分ではなかった。グループ学習のすすめ方、教員の指導体制について見直す必要がある。

II. 2018年度に向けての取り組み

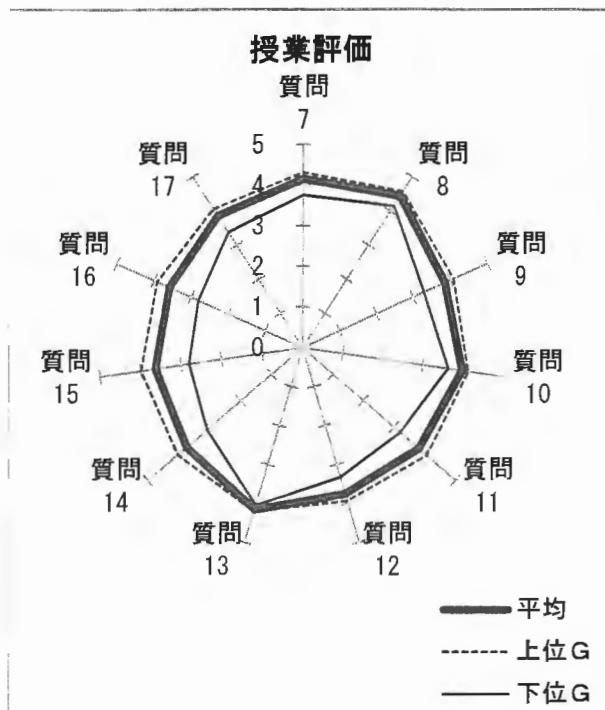
2018年度担当予定科目名：健康教育学

理論については、専門用語の意味をおさえながら、話し方、説明の仕方を工夫する。

健康教育の展開では、臨床での患者教育をイメージできるように、具体的な疾病予防や患者への療養生活など、健康教育のテーマについて見直しを検討する。また、グループ学習の指導については、教員の複数指導体制について他の科目との調整を行いながら対応する。

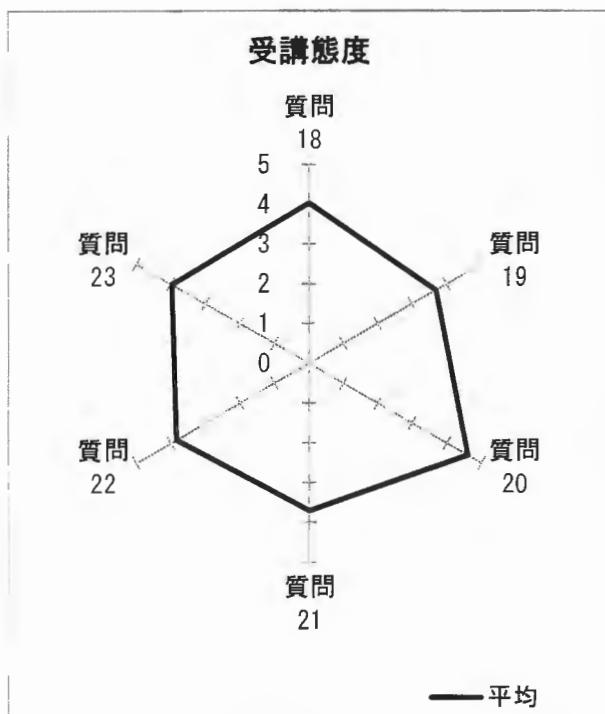
科目コード 918 (2017年度 前期)

看護学部 看護学科 永田 耕司 痘学・保健統計学 I



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.2	4.3	3.8
質問 8	4.4	4.6	4.1
質問 9	3.8	4.1	3.3
質問10	4.0	4.1	3.6
質問11	3.8	4.1	3.2
質問12	3.8	3.9	3.3
質問13	4.2	4.2	4.0
質問14	3.8	4.0	3.1
質問15	3.6	4.0	2.8
質問16	3.6	3.9	2.8
質問17	3.9	4.1	3.4
平均	3.9	4.1	3.4

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.0
質問19	3.7
質問20	4.6
質問21	3.7
質問22	3.8
質問23	4.0
平均	4.0

- 質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
看護学部	看護学科	永田 耕司	疫学・保健統計学Ⅰ	75名

2017年度前期授業評価アンケート集計結果： 教員による分析・評価と次年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

例年、疫学保健統計Ⅰは国家試験対象科目であるので、その内容を踏まえて、配布資料と小テスト6カテゴリー十点滴問題を取り入れた形式の授業を行ってきている。その小テストを改変して、定期試験を行ってきていている。今回は平均3.9点と昨年4.4点と前回と比べて下がっていた。授業では、資料作成を行い、その中に小テスト問題も組み入れて配布して教えている。ただ、この学問は学生にとって、非常に難しいと感じる学問のようである。例年、再試験が20名前後いたが、今回は10名であった。再履修になる学生も2名いた。できるだけ理解力を高められるように、わかりやすく教えてはきている。16回目の授業を質問タイムに充てて、10数名の学生が参加している。定期試験終了後はすぐに模範解答を提示して、合否がわかるように配慮を行っている。

しかしながら、質問15「授業への理解」、及び質問16「授業に興味・関心・意欲が引き出せたか」が3.6点と最も低かった。次いで、質問9「教員の話し方」、質問11「教員の説明のわかりやすさ」、質問12「教員の授業環境に対する配慮」、14「学生の理解度の確認と授業への反映」が3.8点と低かった。今回は全体の評価4.5点が出ているが、それと比較すると今回はかなり低かった。全く、同じ教え方をしていたが、昨年4.4点、今年が3.9点と大きな差がみられた原因がよくわからないところである。入学年によって、評価の基準が異なっているようである。

さらに、わかりやすく、学生の理解を確認しながら授業を行っていきたい。

学生から話を聞くと、これまでで最も学習したことであった。今後も学生と緊張感をもってかかわっていきたい。

II. 次年度に向けての取り組み

2018年度担当科目名：疫学

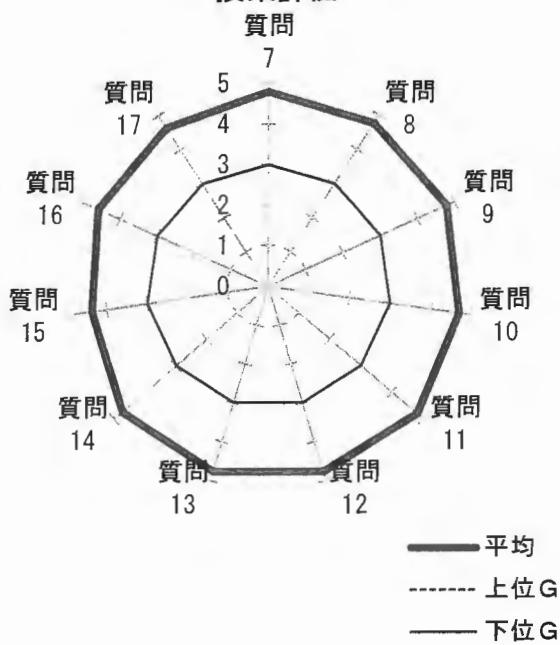
(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

看護は患者の体や心を学ぶ学問が中心であるので、国語や理科系が得意な学生が集められている。実習や演習、レポート、感想文はそう苦手としないが、計算は苦手と感じる学生がいる。学生に聞くと、疫学のような数学系は高校以来学んできていないので、頭が追いついてきませんと話す学生もいた。よって、これまで経験したことがないぐらい頑張ってきたと言う学生もいた。苦手であるが、その頑張りを引き続き応援していきたい。今後も更に理解を深められるような学習（保健統計・疫学・点滴の滴下数など）をさらに充実させていきたい。

科目コード 920 (2017年度 前期)

看護学部 看護学科 黒木 智鶴 看護過程演習

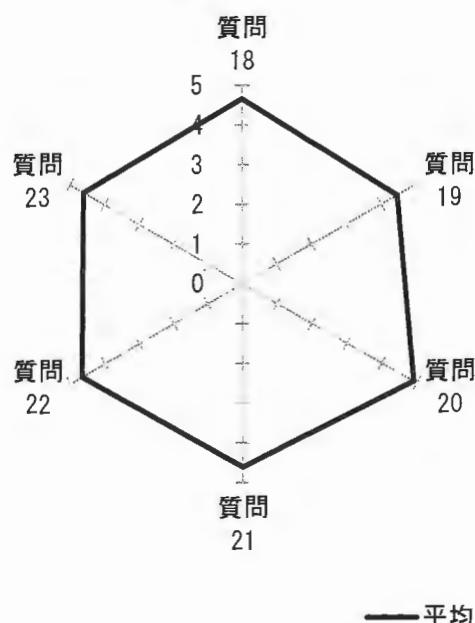
授業評価



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.8	4.8	3.0
質問 8	4.8	4.8	3.0
質問 9	4.8	4.8	3.0
質問10	4.7	4.7	3.0
質問11	4.8	4.8	3.0
質問12	4.8	4.8	3.0
質問13	4.8	4.8	3.0
質問14	4.7	4.8	3.0
質問15	4.4	4.4	3.0
質問16	4.6	4.6	3.0
質問17	4.6	4.7	3.0
平均	4.7	4.7	3.0

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性

受講態度



質問項目	平均
質問18	4.7
質問19	4.4
質問20	4.9
質問21	4.6
質問22	4.7
質問23	4.6
平均	4.7

- 質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
看護学部	看護学科	黒木智鶴	看護過程演習	75

2017年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

昨年度の平均点は4.6点であった。昨年度、評価の低い項目は質問15「授業を理解できたと思うか」平均3.9点、質問16「授業は興味・関心・意欲を引き出したか」平均4.3点であった。

今年度の平均点は4.7点とほとんど変わらなかつたが、質問15は4.4点、質問16は4.6点と上昇した。

昨年度の反省をいかし、事例を1事例とし、クラス別に講義・演習を行った。1事例にしたことで、学生の理解を確認しながら講義・演習を進めることができた。また、クラス別にすることで、講義・演習時間に学生にしっかりと関わることができた。さらに、学生から提出されたレポートをもとにループリック評価表を作成し、学生に評価内容をコメントとともに返すことによって主体的な学習につながった。また、ループリック評価を取り入れたことによって形成評価ができ、学生がつまずいているところに気づき指導につなげることができた。これらの取り組みによって昨年度は低かった質問15,16が上昇したと考える。

しかし、下位グループの平均点は3.0であり、学生個々に対する指導が十分できていなかった点が反省である。グループ指導が中心となるため理解が難しい学生がいたのではないかと思う。

II. 2018年度に向けての取り組み

2018年度担当予定科目名：基礎看護技術Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

来年度は看護過程演習の担当から外れる予定である。

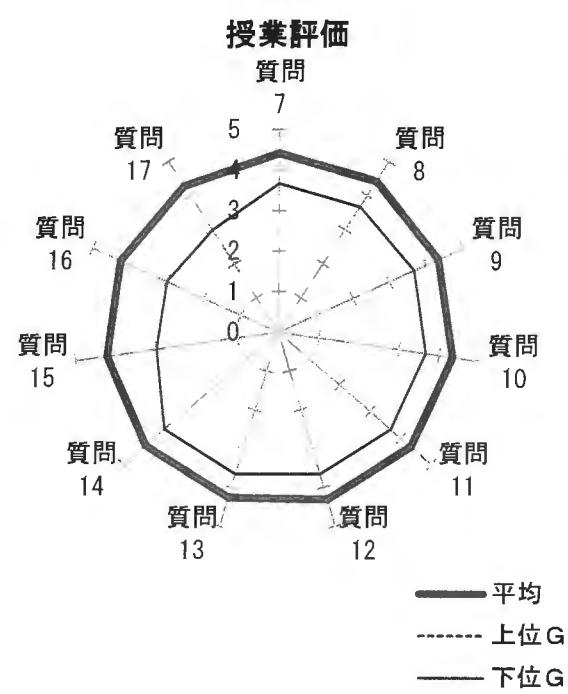
今年度、学生が主体的に学べるように教育方法を工夫した。

来年度は、看護技術の習得に携わることが多くなるため、学生が講義・演習で学んだことを臨地実習で「使える」ように教育方法の工夫を行っていきたい。

現在、インストラクショナルデザインを学んでおり、その学びをいかした教育を研究的に取り組んでいく予定である。

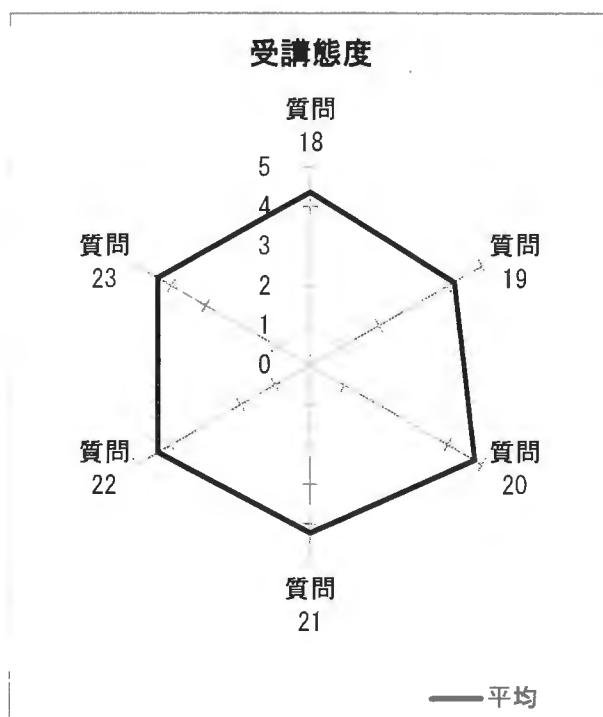
科目コード 921 (2017年度 前期)

看護学部 看護学科 岡田 純也 成人看護学概論



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.4	4.5	3.7
質問 8	4.4	4.5	3.7
質問 9	4.3	4.4	3.7
質問10	4.3	4.4	3.7
質問11	4.3	4.4	3.7
質問12	4.3	4.3	3.7
質問13	4.3	4.3	3.7
質問14	4.3	4.3	3.7
質問15	4.2	4.3	3.0
質問16	4.2	4.3	3.0
質問17	4.3	4.3	3.0
平均	4.3	4.3	3.5

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.4
質問19	4.2
質問20	4.8
質問21	4.2
質問22	4.4
質問23	4.4
平均	4.4

- 質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
看護学部	看護学科	岡田・石川	成人看護学概論	74名

2017年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

1) 授業評価について

授業評価の平均点は4.3点であり、全実施科目平均値4.5点と比較して、低い評価であった。この科目は概論の科目であり、内容的には幅広く、焦点を絞るには、難しい状況であった。また、講義を12コマ行い、その後、残りの3コマは理論の等の習得に向けたグループ学習および発表会を取り入れている。今後、グループ学習および発表会について、積極的に調べ、ディスカッションできる機会を増やしていきたい。

2) 受講態度について

受講評価の平均点は4.4点であり、全実施科目平均値4.4点と比較して、変わらなかった。特に、欠席回数の平均点は4.8点であり、全実施科目平均値4.6点と比較して、高い評価であった。しかし、「授業内容や到達目標を理解して受講したか」の平均点は4.2点であり、全実施科目平均値4.3点と比較して、やや低い評価であった。やはり、上記の授業評価の分析と評価で述べたように概論という科目であったため、内容が難しく、興味が持てなかつた可能性がある。

II. 2018年度に向けての取り組み

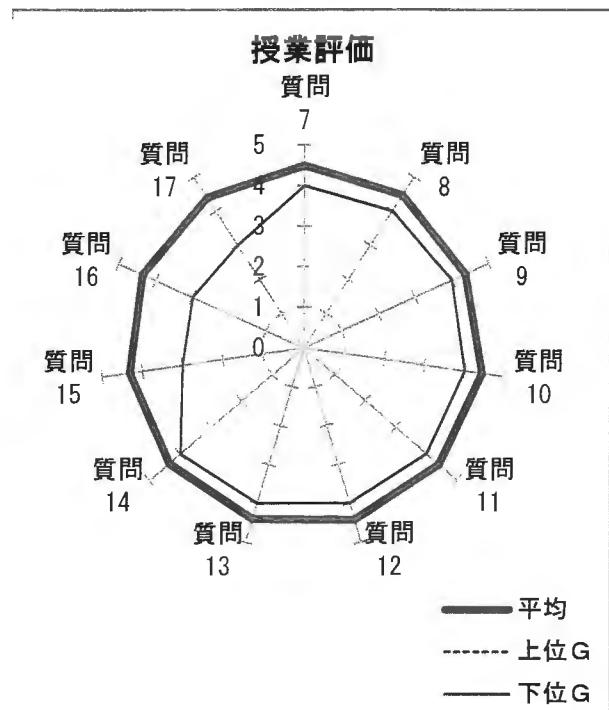
2018年度担当予定科目名：成人看護学概論

講義中心の形式であり、どうしても内容が固くなる科目である。今後、問題発見解決型学習や学習者中心の形式を取り入れ、能動的学習（アクティブ・ラーニング）を検討していく。

また、教員相互の授業参観を行い、改善点などの指摘をもらい、講義の組み立てや内容を再検討していきたい。

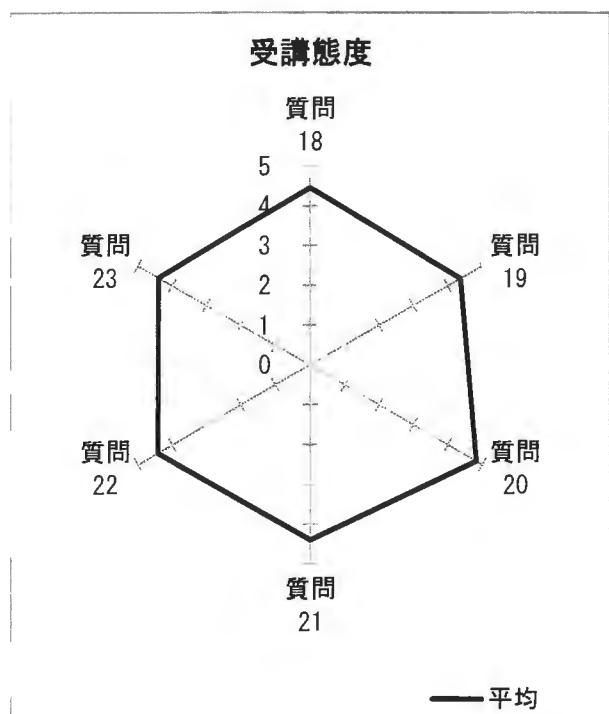
科目コード 922 (2017年度 前期)

看護学部 看護学科 石川 美智 成人看護学方法論Ⅱ



質問項目	平均	上位G	下位G
質問7	4.5	4.5	4.0
質問8	4.5	4.5	4.0
質問9	4.4	4.4	4.0
質問10	4.4	4.4	4.0
質問11	4.4	4.4	4.0
質問12	4.4	4.4	4.0
質問13	4.4	4.4	4.0
質問14	4.4	4.4	4.0
質問15	4.3	4.4	3.0
質問16	4.4	4.4	3.0
質問17	4.4	4.4	3.0
平均	4.4	4.4	3.7

- 質問7：授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問8：教員の授業時間遵守
 質問9：教員の話し方
 質問10：教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11：教員の説明のわかり易さ
 質問12：教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
 質問13：質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14：学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15：（自分は）授業を理解できたと思うか
 質問16：授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17：新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.5
質問19	4.4
質問20	4.8
質問21	4.4
質問22	4.4
質問23	4.4
平均	4.5

- 質問18：（自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19：授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20：欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
 質問21：授業の予習・復習をおこなったか
 質問22：レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23：私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
看護学部	看護学科	石川、平松、中島	成人看護学方法論Ⅱ	74名

2017年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

1. 授業評価

質問7～17の11項目の平均値は、4.4であった。11項目全てにおいて、90%以上の学生が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えていた。質問11項目の上位グループの各項目の平均値は、4.5が2項目、4.4が9項目であった。下位グループの各項目の平均値は、4.0が8項目、3.0が3項目であった。本科目を平均値近くに評価している学生が多くた。

平均値を上回った項目は2項目、平均値を下回った項目は1項目、平均値と同点の項目は8項目であった。平均値を上回った項目は質問7「授業の目標説明とシラバスに沿った実施」4.5、質問8「教員の授業時間厳守」4.5であった。平均値を上回った2項目については、担当教員間で意思統一を図り、遵守するよう努めた。平均値を下回った項目は、質問15「(自分は)授業を理解できたと思うか」4.3であった。質問15は、講義内容の難易度に関する項目と捉えられる。本科目は、本来、解剖・生理学、病態治療学、(本科目の演習内容に関連する)基礎看護学、成人看護学概論等履修後に修得するべき科目であるが、本学科のカリキュラム上では、これらの科目的履修前、あるいは併行して学修している状況にある。学生のレディネスを踏まえ、教授内容の精選を行ったが、学生にとっては前提となる知識を備えないままの講義受講となり、難易度が高かったものと思われる。また、本年度は、スケジュール上1週間に2コマ(180分)ずつの講義であり、学習する(教授する)内容量も多く、更に本科目に対する学生の難易度の実感が高まったのではないかと思われる。

2. 授業態度

質問18～23の6項目の平均値は4.5であり、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えていた学生は89.8～97.1%であった。平均値より上回っている項目は、質問20「欠席回数」4.8の1項目、平均値と同点は質問18「授業に真面目に取り組んだと思うか」の1項目、他の4項目においては全て4.4で下回っていた。割合が最も低かった項目は、質問23「私語・携帯電話などの自肃、教員及び他者の発言傾聴」であった。この項目には学生の授業評価結果より、授業の理解の実感が低かったこと、授業の興味・関心・意欲を引き出す得点が高値ではないことなどが、教員及び他者の発言への興味・関心に反映し低かったものと思われる。

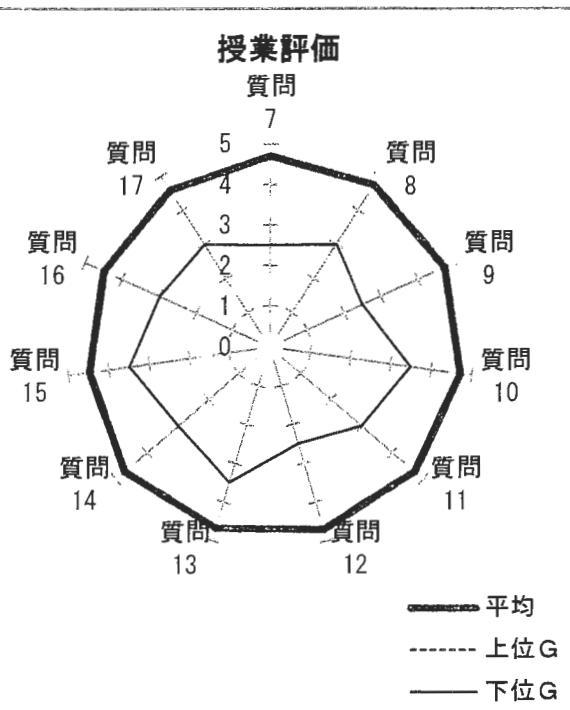
II. 2018年度に向けての取り組み

2018年度担当予定科目名：成人看護学方法論Ⅱ

講義スケジュールを週に1コマ(90分)とし、学生が講義内容を理解しやすいよう、教授内容を十分に精選する。学生の授業の理解度を把握するために、講義終了時または次の講義開始時などに小テストを行う。技術演習においては、前提知識となる講義が未学修であることが多いため、難易度の低い技術内容を選択して教授する。また、本科目だけでの目標到達を考えず、成人領域における他科目との関連性を検討し、目標到達度の設定を行う。

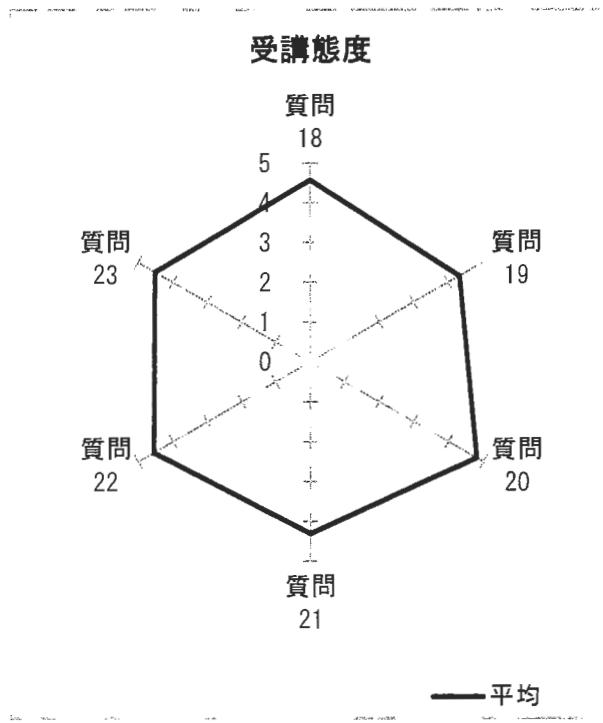
科目コード 924 (2017年度 前期)

看護学部 看護学科 岩瀬 貴子 精神看護学概論



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.7	4.8	2.5
質問 8	4.8	4.8	3.0
質問 9	4.7	4.8	2.5
質問10	4.7	4.8	3.5
質問11	4.7	4.8	3.0
質問12	4.7	4.8	2.5
質問13	4.7	4.7	3.5
質問14	4.7	4.8	3.0
質問15	4.5	4.5	3.5
質問16	4.5	4.5	3.0
質問17	4.6	4.6	3.0
平均	4.7	4.7	3.0

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.6
質問19	4.3
質問20	4.8
質問21	4.3
質問22	4.6
質問23	4.5
平均	4.5

- 質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自肃、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
看護学部	看護学科	岩瀬貴子	精神看護学概論	75

2017年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

受講態度上位G（66名）の評価は、全体的に4.5以上の評価であるが、受講態度下位G（2名）の評価は、2.5~3.5と幅がある。受講態度下位Gは、2名であり、「どちらともいえない」「どちらかといえばそう思えない」にチェックをしていた。学生全員が受講態度上位であることは困難であるため、概ね評価は、よかったですと考える。

次年度も現在の取組みを継続していく。

II. 2018年度に向けての取り組み

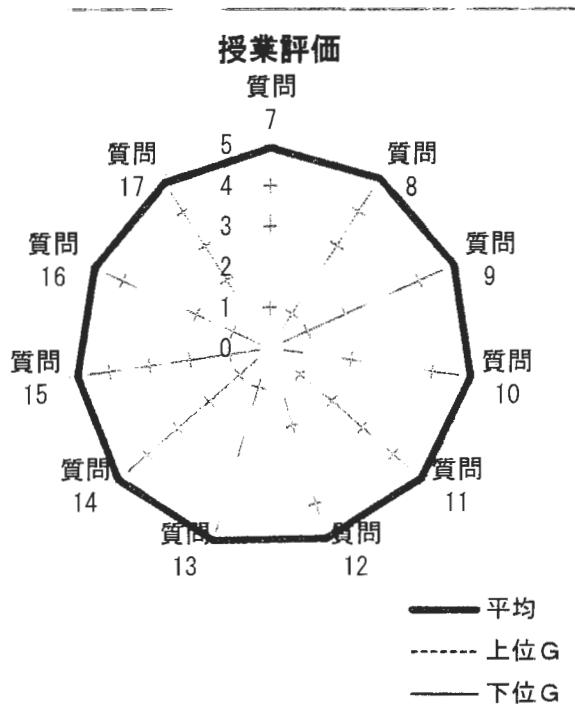
2018年度担当予定科目名：精神看護学概論

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

新たな取組みは現在検討していない。

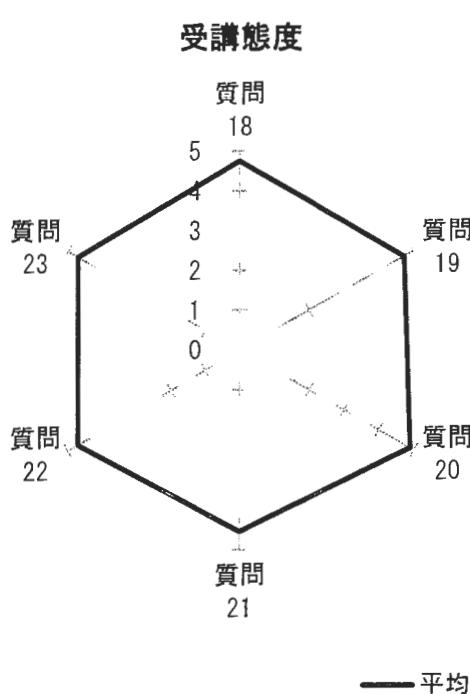
科目コード 926 (2017年度 前期)

看護学部 看護学科 山中 真弓 小児看護学方法論



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.9	4.9	#DIV/0!
質問 8	5.0	5.0	#DIV/0!
質問 9	4.9	4.9	#DIV/0!
質問10	5.0	5.0	#DIV/0!
質問11	4.9	4.9	#DIV/0!
質問12	4.9	4.9	#DIV/0!
質問13	4.9	4.9	#DIV/0!
質問14	4.9	4.9	#DIV/0!
質問15	4.8	4.8	#DIV/0!
質問16	4.8	4.8	#DIV/0!
質問17	4.8	4.8	#DIV/0!
平均	4.9	4.9	#DIV/0!

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.8
質問19	4.7
質問20	4.9
質問21	4.5
質問22	4.7
質問23	4.7
平均	4.7

- 質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
看護学部	看護学科	山中真弓、畠知華子	小児看護学方法論	73人

2017年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

回答者70名(回収率95.8%)について分析する。

小児看護学方法論は小児の発達段階に合わせた日常生活援助技術や健康障害を持つ小児と家族の心理を理解した看護技術を習得することを目的とした科目である。昨年度と同様、教育内容・方法としては、子どもの成長発達と日常生活の現状やその援助技術について講義・演習を行い、子どもが主に示す症状のアセスメントと看護について、グループディスカッションとロールプレイを行った。治療過程においてみられる主な検査・処置を受ける子どもの看護についてもグループディスカッションやロールプレイを行った。健康段階に応じた看護については講義を行っていった。

昨年度の授業評価の結果から、検討すべき点として「教材・機器・板書等の効果的な使用」が4.6で、1枚のパワーポイントに文字数が多く見づらかったという学生からの声が聞かれたため、効果的なパワーポイントの作成を検討した。この結果、今年度は5.0であった。そのほかにも、学生のレディネスからロールプレイの工夫を行なったため、全体的に評価が上昇し、4.8から5.0という結果が得られた。今後も学生のレディネスを把握した教育方法の工夫に取り組みたい。

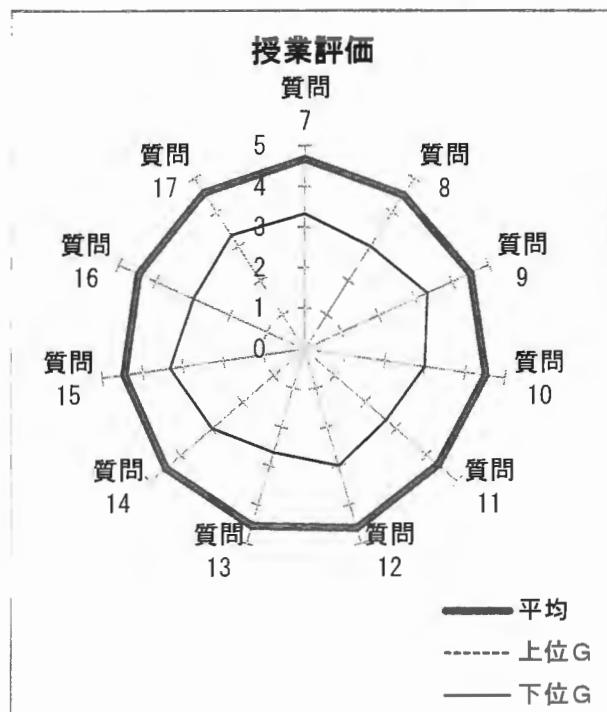
II. 2018年度に向けての取り組み

2018年度担当予定科目名：小児看護学方法論

授業評価の結果、高い評価を得たため、今年度と同様の教育内容・教育方法を続けるとともに、継続学生のレディネスにあった工夫を取り入れていきたい。

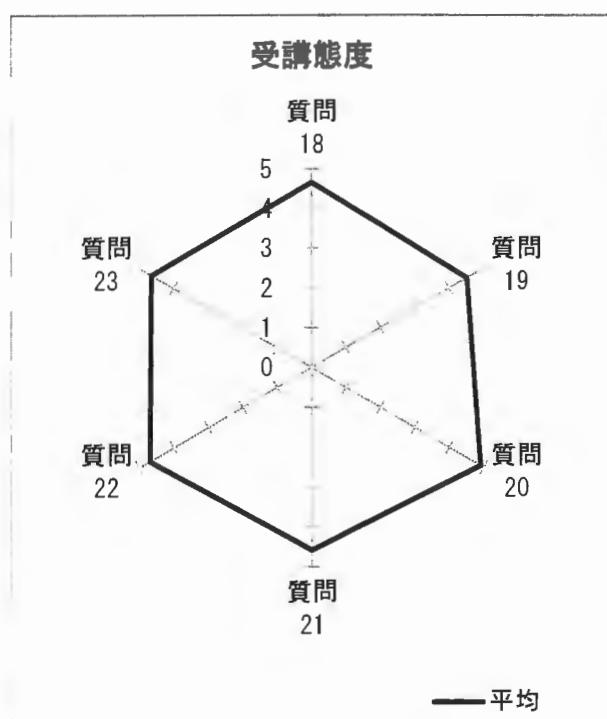
科目コード 927 (2017年度 前期)

看護学部 看護学科 堀川 新二 成人看護学方法論Ⅲ



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.7	4.7	3.3
質問 8	4.5	4.6	3.0
質問 9	4.5	4.5	3.3
質問10	4.5	4.6	3.0
質問11	4.4	4.4	2.7
質問12	4.6	4.7	3.0
質問13	4.5	4.6	2.7
質問14	4.5	4.5	3.0
質問15	4.5	4.5	3.3
質問16	4.5	4.5	3.0
質問17	4.6	4.6	3.3
平均	4.5	4.6	3.1

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.7
質問19	4.5
質問20	4.9
質問21	4.6
質問22	4.7
質問23	4.6
平均	4.7

- 質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
看護学部	看護学科	堀川、平松、大曲、石川、中島、阿部、岡田	成人看護学方法論Ⅲ	73名

2017年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

1. 授業評価について

質問7～17は、94.4～87.3%の学生が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えており、平均値は4.7～4.4であった。最も評価が高かったのは「質問7：授業の目標説明とシラバスに沿った実施」で平均値4.7、次いで「質問12：教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）」「質問17：新しい知識・技術・理論等の習得への有用性」が平均値4.6であった。授業は、成人の慢性期と急性期の患者事例をもとに看護過程の展開を学修するため、グループワークと発表、シミュレーションなどの演習を実施した。シラバスを基に事前に演習のスケジュールを示し、講義演習ごとにGIO・SBOの説明を行ったため、学生は目標を理解して演習に臨めていたと思われる。グループワークやシミュレーションでは、学生を14グループ（1グループ5～6名）に分け教員7名で指導にあたったことで、個々の学生への授業環境の配慮につながったと思われる。また、実習を見据えて看護過程の展開を学修できたことから、学修内容が実習で活用できるという有用性を感じた学生が多かったものと思われる。

「質問11：教員の説明のわかり易さ」は最も低く平均値が4.4であった。紙上患者での看護過程であることや、基礎看護で学んだ看護過程と理論や記録用紙が違うことに対して理解が難しい様子が見られた。慢性期疾患患者で最初の事例を展開し、アセスメントの書き方が解りづらいなどの意見があつたため、2事例目の急性期疾患患者ではグループワークの後に教員の考えるアセスメント例を伝えることで理解を促した。それでも解りづらいと感じた学生の意見が反映されていると思われる。

2. 受講態度について

質問18～23は、100～91.5%の学生が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えており、平均値は4.9～4.5であった。「質問19：授業内容や到達目標を理解して受講していたか」が最も低く平均値4.5であった。授業評価では、目標説明がされていると評価しているものの、グループワークが多かつたことから、自信の態度としては受け身になっていた学生の意見を反映していると考える。

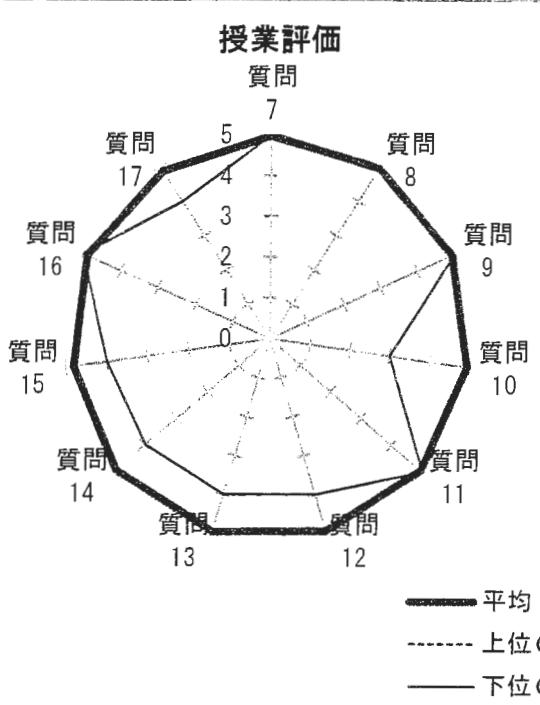
II. 2018年度に向けての取り組み

2018年度担当予定科目名：成人看護学方法論Ⅲ

基礎看護学では、ロイの理論を用いて看護過程の展開を行っているが、成人領域では理論を用いずにNANDA-Iで看護過程を展開していることから、その内容の違いで学生が戸惑ったことが考えられる。今後は、成人看護学実習も含めて記録用紙を変更する予定であり、記録方法の理解を深めさせるよう取り組んでいく。また、記録することが中心ではなく、グループワークや演習で患者理解につながる取り組みができるように、演習計画を立てていく。

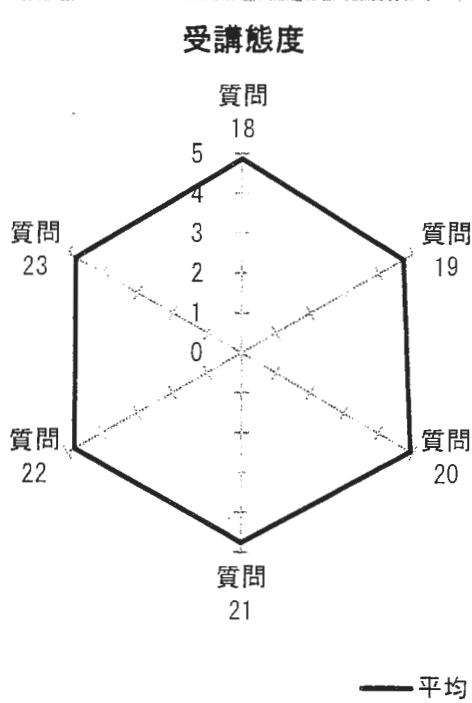
科目コード 932 (2017年度 前期)

看護学部 看護学科 應戸 麻美 精神看護学方法論演習



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	5.0	5.0	5.0
質問 8	5.0	5.0	5.0
質問 9	4.9	4.9	5.0
質問 10	4.9	5.0	3.0
質問 11	5.0	5.0	5.0
質問 12	4.9	5.0	4.0
質問 13	5.0	5.0	4.0
質問 14	4.9	5.0	4.0
質問 15	4.8	4.8	4.0
質問 16	4.9	4.9	5.0
質問 17	4.9	4.9	4.0
平均	4.9	4.9	4.4

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.9
質問19	4.7
質問20	4.9
質問21	4.8
質問22	4.8
質問23	4.8
平均	4.8

- 質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
看護学部	看護学科	岩瀬・應戸	精神看護学方法論演習	74名

2017年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

精神看護学方法論演習では、昨年の評価をもとに教材を改良して、実施した。また、授業案は、領域長から指導を受け、出来る限りの工夫をして準備をした。しかし、限られたコマの中で、学生が精神看護学における看護スキルを理解し演習で実感できるような講義にするには、事前学習の工夫、学生の思考過程に沿った教材の進め方等、効果的ではない面があった。

II. 2018年度に向けての取り組み

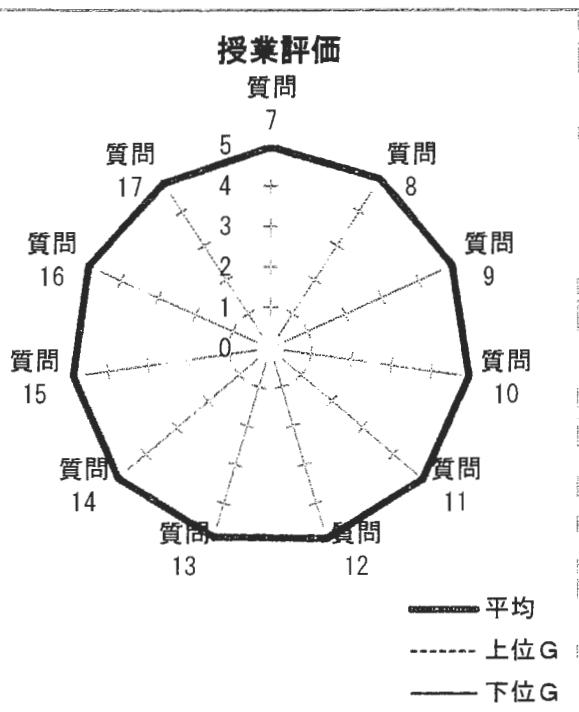
2018年度担当予定科目名：精神看護学方法論演習

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

精神看護学方法論演習では、より精神看護学における重要な看護スキルを、演習によって学生が体験できるよう、講義後も、自己評価及び研修への参加を計画し実施している。また、2018年度は、教材も一部新しいものを取り入れ、学生の理解を得られ、さらに学生が実習において活用できるよう工夫をしていきたい。

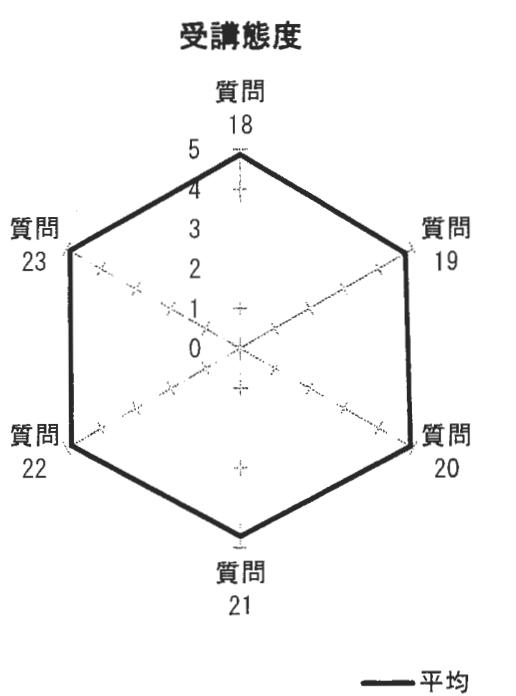
科目コード 933 (2017年度 前期)

看護学部 看護学科 岩瀬 貴子 精神看護学方法論



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	5.0	5.0	#DIV/0!
質問 8	5.0	5.0	#DIV/0!
質問 9	4.9	4.9	#DIV/0!
質問10	4.9	4.9	#DIV/0!
質問11	5.0	5.0	#DIV/0!
質問12	4.9	4.9	#DIV/0!
質問13	4.9	4.9	#DIV/0!
質問14	4.9	4.9	#DIV/0!
質問15	4.9	4.9	#DIV/0!
質問16	4.9	4.9	#DIV/0!
質問17	4.8	4.8	#DIV/0!
平均	4.9	4.9	#DIV/0!

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.9
質問19	4.8
質問20	4.9
質問21	4.7
質問22	4.9
質問23	4.9
平均	4.8

- 質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自肃、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
看護学部	看護学科	岩瀬貴子	精神看護学方法論	75

2017年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

受講態度上位G(67名)、受講態度下位G(0名)であった。評価は質問7～17は、平均値4.8～5.0であり、高い評価を得た。また、質問18～23は、平均値4.7～4.9であり講義への学生参加や認識の高さを確認できた。

講義は、学生の反応を確認しながら進めているが、臨床場面の説明等を行う際、学生の反応が良く、教員との相互作用で効果的な講義内容となる場面が多くあった。次年度も学生が興味を持てるような講義内容の工夫を行い、興味関心を深めたい。

II. 2018年度に向けての取り組み

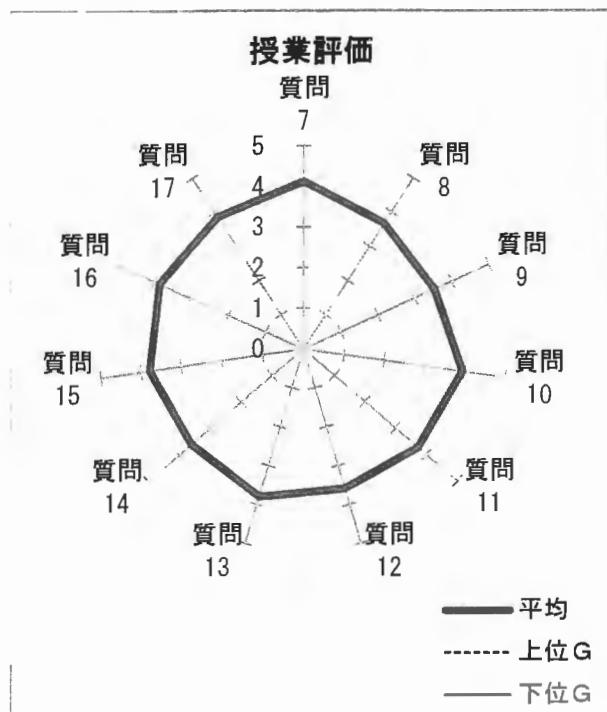
2018年度担当予定科目名：精神看護学方法論

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

リエゾン精神看護の講義は、今年度着任された長崎大学病院 リエゾン精神看護専門看護師に講義を依頼し、現場の活躍等を教授していただく。

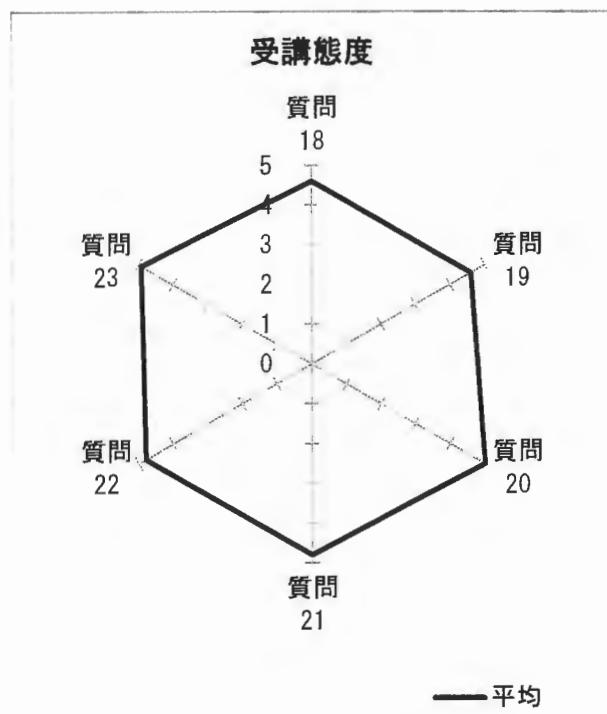
科目コード 936 (2017年度 前期)

看護学部 看護学科 原岡 智子 公衆衛生看護学概論



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.1	4.1	#DIV/0!
質問 8	3.7	3.7	#DIV/0!
質問 9	3.5	3.5	#DIV/0!
質問10	3.9	3.9	#DIV/0!
質問11	3.7	3.7	#DIV/0!
質問12	3.6	3.6	#DIV/0!
質問13	3.8	3.8	#DIV/0!
質問14	3.6	3.6	#DIV/0!
質問15	3.8	3.8	#DIV/0!
質問16	3.9	3.9	#DIV/0!
質問17	3.9	3.9	#DIV/0!
平均	3.8	3.8	#DIV/0!

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.6
質問19	4.6
質問20	5.0
質問21	4.8
質問22	4.8
質問23	4.9
平均	4.8

- 質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
看護学部	看護学科	原岡	公衆衛生看護学概論	15名

2017年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

本科目の履修学生は3年生からの保健師選択コースの学生15名である。選択コースでは、3年次・4年次のコースの全科目を通して、卒業時の到達目標及び保健師に求められる実践能力の修得のために授業計画を立案している。本科目の公衆衛生看護学概論は実践の基本となる科目である。今後の講義・演習・実習を考えて、公衆衛生看護の基本概念や保健師活動および歴史、実際の市の保健事業の見学、保健事業計画、公衆衛生看護管理など幅広く教授したこと、授業の次の時間に疫学・保健統計の演習を行ったことで時間的余裕が無かったことにより学生の理解の程度を考慮した部分が不足したと考える。一方、公衆衛生看護や保健師活動について想像がつかない学生ばかりだったので、興味を持ち学習意欲が向上することと公衆衛生看護や保健師活動を知るために、市の保健事業の見学とグループワークを取り入れた。その結果少し分かる様になったとの意見があった。

II. 2018年度に向けての取り組み

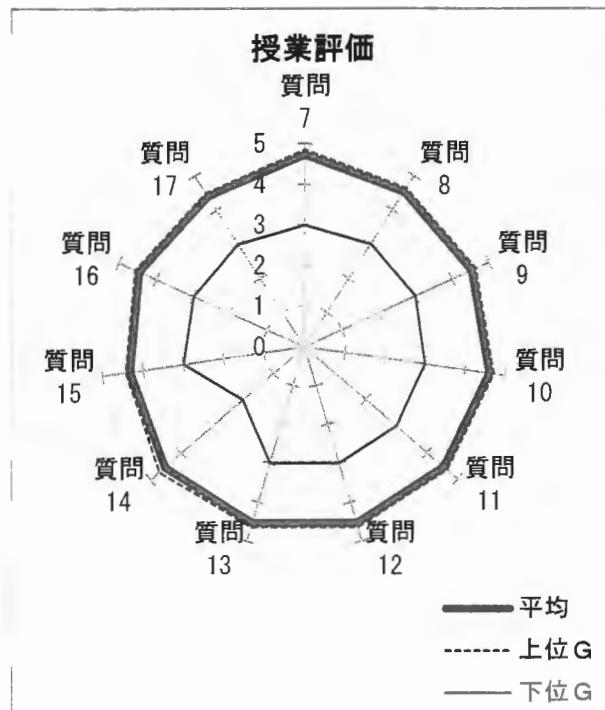
2018年度担当予定科目名：公衆衛生看護学概論

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

本年度の評価を活かして、他の科目の内容も含めた授業内容の検討を行なう。他科目の演習や実習において実践能力が発揮できるような講義内容を検討し、理解の確認を行なう。小テストを数回取り入れ理解の確認を対応する、課題に対する自己の考えをまとめさせる、DVD導入など教材の工夫、市の事業への参加（フィールドワーク）しグループワークをする等の取り組みをしていきたい。

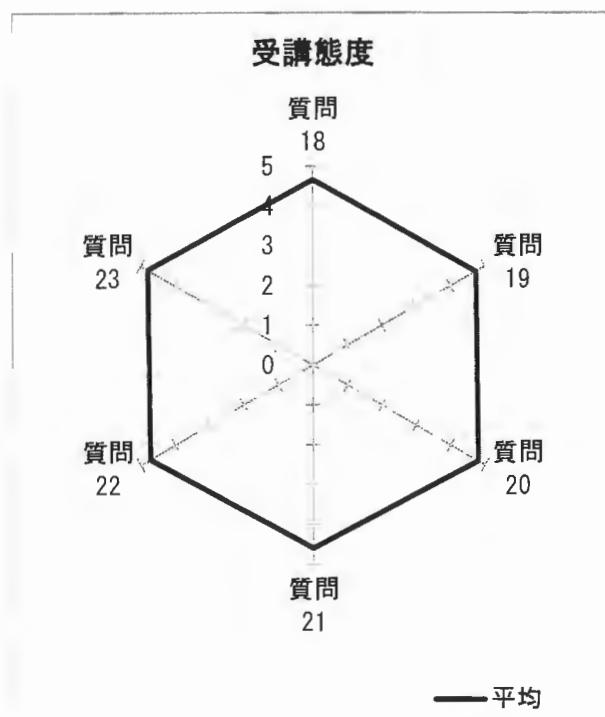
科目コード 937 (2017年度 前期)

看護学部 看護学科 濱里 セツ子 公衆衛生看護活動論 I



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	4.7	4.9	3.0
質問 8	4.5	4.6	3.0
質問 9	4.5	4.6	3.0
質問 10	4.6	4.7	3.0
質問 11	4.5	4.6	3.0
質問 12	4.5	4.6	3.0
質問 13	4.5	4.6	3.0
質問 14	4.5	4.7	2.0
質問 15	4.3	4.4	3.0
質問 16	4.5	4.6	3.0
質問 17	4.4	4.5	3.0
平均	4.5	4.6	2.9

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.7
質問19	4.7
質問20	4.8
質問21	4.6
質問22	4.7
質問23	4.8
平均	4.7

- 質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
看護学部	看護学科	濱里セツ子	公衆衛生看護活動論 I	15

2017年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

授業評価は平均4.5点であった。質問14「学生の理解度の確認と授業への反映」については上位G平均4.7点に対し、下位G平均は2.0点だった。講義の最後に質問の時間をとってその都度対応し、講義後のレスポンスカードに対して次の講義時に対応していたが、各個人の理解度について把握できていなかった。履修学生は15名と少人数であるため、一人ひとりの理解度を確認し、講義をすすめていきたい。授業構成が講義中心だったこともあり、学生が発言する機会が少なかったことも要因として上げられる。

質問15「（自分は）授業を理解できたと思うか」の平均は4.3点と質問の中で最も低かった。公衆衛生看護活動論Iは具体的な保健活動を学修する科目であるが、学生にとって公衆衛生看護学概論と同時期に並行して講義をうけている。公衆衛生看護学概論による基礎的な公衆衛生看護について理解しないまま、本科目を学修していることも要因として考えられる。他の科目との関連性を含めて、さらに工夫が必要と考える。

II. 2018年度に向けての取り組み

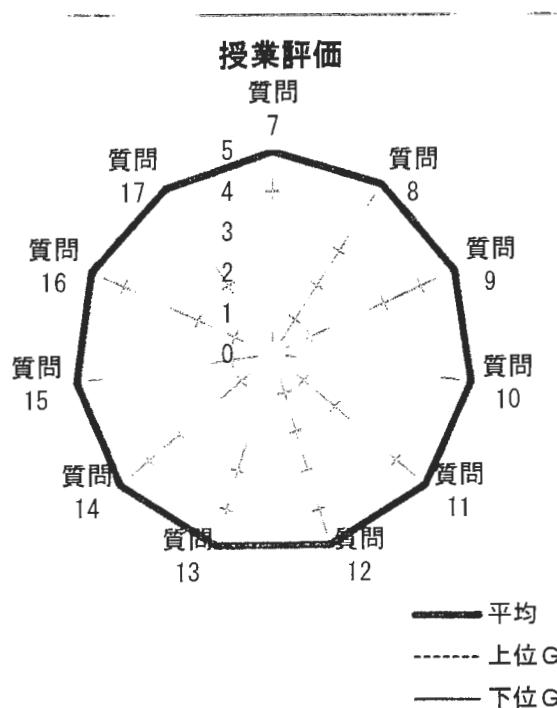
2018年度担当予定科目名：公衆衛生看護活動論I

学生の理解度を確認しながら学習効果を高めるために、小テスト、グループワークを取り入れ、理解の状況によって助言や補足説明を行う。

公衆衛生看護学概論など、他の科目との関連性を含めてさらに工夫が必要と考える。

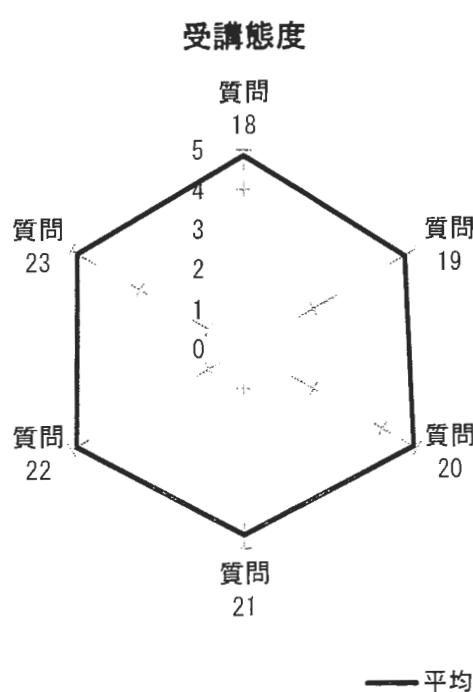
科目コード 938 (2017年度 前期)

看護学部 看護学科 山中 真弓 小児看護学方法論演習



質問項目	平均	上位G	下位G
質問7	5.0	5.0	#DIV/0!
質問8	5.0	5.0	#DIV/0!
質問9	4.9	4.9	#DIV/0!
質問10	4.9	4.9	#DIV/0!
質問11	5.0	5.0	#DIV/0!
質問12	4.9	4.9	#DIV/0!
質問13	4.9	4.9	#DIV/0!
質問14	4.9	4.9	#DIV/0!
質問15	4.8	4.8	#DIV/0!
質問16	4.9	4.9	#DIV/0!
質問17	4.8	4.8	#DIV/0!
平均	4.9	4.9	#DIV/0!

- 質問7：授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問8：教員の授業時間遵守
 質問9：教員の話し方
 質問10：教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11：教員の説明のわかり易さ
 質問12：教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
 質問13：質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14：学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15：（自分は）授業を理解できたと思うか
 質問16：授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17：新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.9
質問19	4.7
質問20	4.9
質問21	4.7
質問22	4.9
質問23	4.8
平均	4.8

- 質問18：（自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19：授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20：欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
 質問21：授業の予習・復習をおこなったか
 質問22：レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23：私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
看護学部	看護学科	山中真弓、畠知華子	小児看護方法論演習	73人

2017年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

回答者69名（回収率94.5%）について分析する。

小児看護方法論演習は小児に対するフィジカルアセスメントや看護過程を展開する技術を習得し、また発達段階に合ったプレパレーションや遊びの援助技術について習得する科目である。事例を使ったフィジカルアセスメント、看護過程展開、プレパレーション、遊びの援助を実践的に教育した。

特に、プレパレーションについては、パフォーマンス評価を取り入れ講義、演習を行なったことで、学生から、子どもの人権を尊重した小児看護技術について学べたという反応が得られた。このため、4.8から5.0という高い授業評価の結果であったと捉えてる。

今後も、実践の場面に即したパフォーマンス課題を提示し、ループリックによる評価の基準を示したパフォーマンス評価を取り入れた教育を実践していきたい。

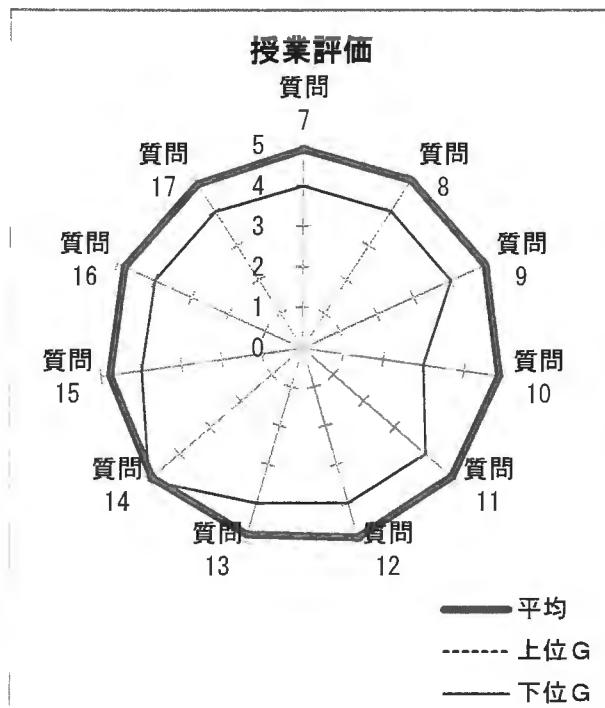
II. 2018年度に向けての取り組み

2018年度担当予定科目名：小児看護方法論演習

今年度は、パフォーマンス評価を取り入れた教育方法が高評価を得たため、来年度も引き続き取り組むこととする。

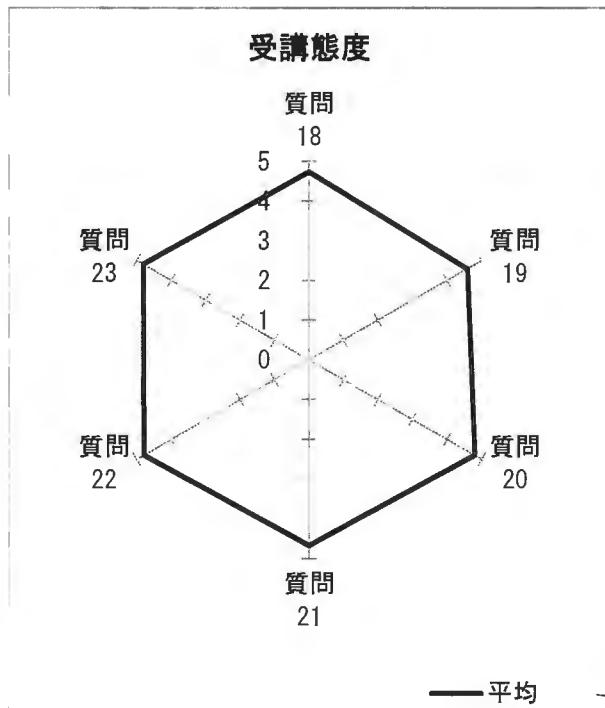
科目コード 939 (2017年度 前期)

看護学部 看護学科 新田 章子 在宅看護方法論演習



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.9	4.9	4.0
質問 8	4.9	4.9	4.0
質問 9	4.9	4.9	4.0
質問10	4.9	4.9	3.0
質問11	4.9	4.9	4.0
質問12	4.9	4.9	4.0
質問13	4.8	4.8	4.0
質問14	4.9	4.9	5.0
質問15	4.8	4.8	4.0
質問16	4.8	4.8	4.0
質問17	4.8	4.8	4.0
平均	4.9	4.9	4.0

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.7
質問19	4.6
質問20	4.8
質問21	4.7
質問22	4.8
質問23	4.8
平均	4.7

- 質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
看護学部	看護学科	新田章子 井上高博 山口善子	在宅看護方法論演習	75名

2017年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

1) 授業評価（質問7～質問17）

授業評価の平均値は4.9と昨年度4.7をさらに上回る高評価であった。前年度の課題を踏まえ、インストラクショナルデザインを各所に取り入れたことも高評価につながったのではないかと考える。質問項目の中でも「質問9：教員の話し方（4.9）」「質問14：学生の理解度の確認と授業への反映（4.9）」「質問7：授業の目標説明とシラバスに沿った実施（4.9）」「質問8：教員の授業時間遵守（4.9）」が高い評価だったので、今後も引き続き、精進していきたいと考える。さらに、「質問16：授業は興味・関心・意欲を引き出したか（4.8）」も高評価ではあるが、授業を魅力あるものにするためには重要な項目であると考えるため、ARCSモデルなども活用しながら方策を探って行きたい。

本科目は、在宅看護技術と在宅での看護過程の展開を学ぶ科目であるが、学生に在宅療養者の看護に興味・関心を持ってもらうように、外部講師として訪問看護師の授業を取り入れたことや最新在宅医療機器の説明に業者を外部講師として依頼したことなども評価に反映していると考える。

2) 受講態度（質問18～質問23）

受講態度の平均値は4.7で高評価であった。特に高評価だったのは「質問20：欠席回数（4.8）」「質問22：レポート・課題等に積極的に取り組んだか（4.8）」「質問23：私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴（4.8）」であった。3年生前期は他の授業科目も重なり、カリキュラム構成上の理由からもレポートや課題に取り組むための時間の確保がむずかしかったことが考えられるが、受講した学生自身の積極的で真面目な学習に対する姿勢が予想できる。

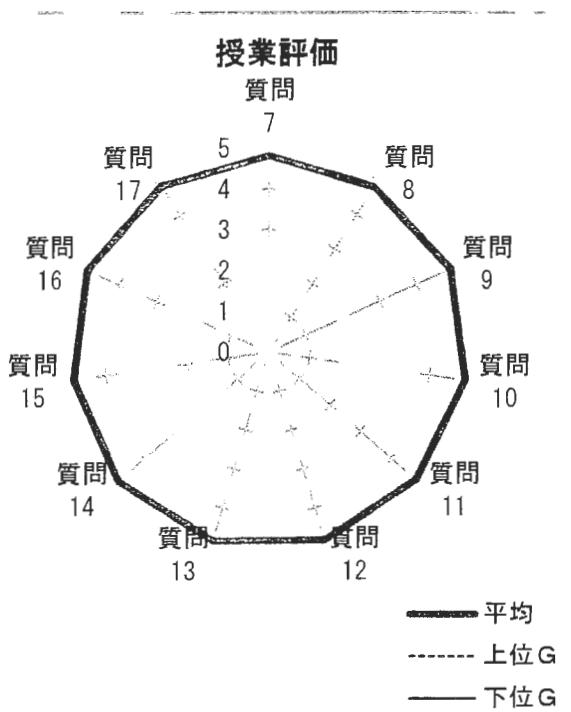
II. 2018年度に向けての取り組み

2018年度担当予定科目名：在宅看護方法論演習

2018年度も今年度同様に、教員間での意見交換や授業の組み立てを綿密に検討して、授業に臨むことを前提として行って行きたい。さらに、インストラクショナルデザインを取り入れながら、学生自身が主体的に学ぶ興味や関心を引き出して行きたいと考えている。

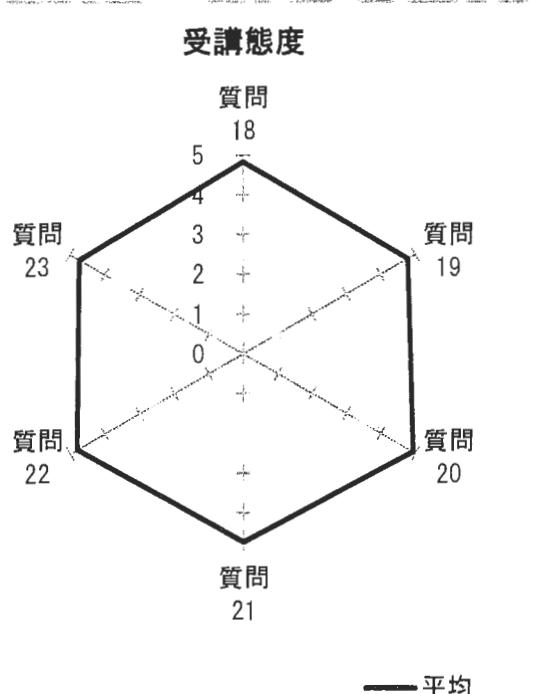
科目コード 941 (2017年度 前期)

看護学部 看護学科 服部 佳代子 母性看護方法論演習



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.8	4.8	#DIV/0!
質問 8	4.8	4.8	#DIV/0!
質問 9	4.9	4.9	#DIV/0!
質問10	4.9	4.9	#DIV/0!
質問11	4.8	4.8	#DIV/0!
質問12	4.8	4.8	#DIV/0!
質問13	4.9	4.9	#DIV/0!
質問14	4.9	4.9	#DIV/0!
質問15	4.8	4.8	#DIV/0!
質問16	4.9	4.9	#DIV/0!
質問17	4.9	4.9	#DIV/0!
平均	4.8	4.8	#DIV/0!

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.8
質問19	4.8
質問20	4.9
質問21	4.7
質問22	4.8
質問23	4.7
平均	4.8

- 質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
看護学部	看護学科	服部佳代子他	母性看護方法論演習	73名

2017年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

本科目では、既習の知識を統合して、妊娠・分娩・産褥期にある母親と胎児・新生児に対する臨地実習を想定した看護実践の中核となる看護技術について演習を通して習得することを目的としている。内容は、マタニティサイクル各期における対象のフィジカルイグザミネーションと基本的な援助技術、ペーパーシュミレーションによる看護過程の展開で構成している。

今年度の授業評価は、平均4.8-4.9点と高得点範囲で総平均4.8点、また下位グループがないことは、次のことが評価されたと考える。

1. 学習目的・目標・内容・方法が示されたシラバスと、最新の研究成果の知見・理論などを根拠とした授業編成により学習活動が動機づけられたこと
2. わかりやすさ、学生の興味・関心・意欲を引き出すことを目的に、胎盤の実物やモデル人形を医療施設や業者から借用したこと、承諾の得られた産後1カ月の母子に対するフィジカルイグザミネーションと保健指導の展開など臨場感のある教材の活用や工夫をしたこと
3. 母性看護特有の看護技術の獲得を目的に、教員間で教授方法を検討し、学生1人1人の手を取り丁寧に指導したこと
4. 学生の知識の獲得を促進するために、随所で理解度を確認したこと、質問の機会を設けたこと、学生の質問と回答を全学生に反映したこと

受講態度評価は、平均4.7-4.9点と授業評価よりは下がるものとの比較的高得点範囲で総平均4.8点であった。

平均4.7点の低得点は、「授業の予習・復習をおこなったか」「私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴」の2項目であった。

「授業の予習・復習をおこなったか」は、専門職を目指す大学生の学習法として、自ら学ぶ学習活動を強化し、「私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴」については、人間関係におけるモラルのあり方、注意力や集中力の欠如を引き起こす生活リズムの変調なども原因している可能性が考えられる。反復される行動を捉え、学生を特定し、個々の学生の改善に向けて努力したい。

II. 2018年度に向けての取り組み

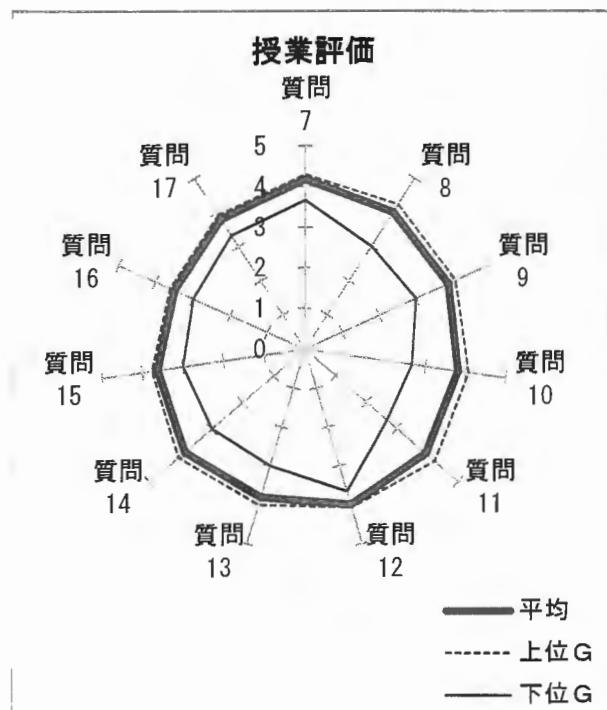
2018年度担当予定科目名：母性看護方法論演習

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

受講態度平均4.7点の低得点項目については、上述のとおりである。

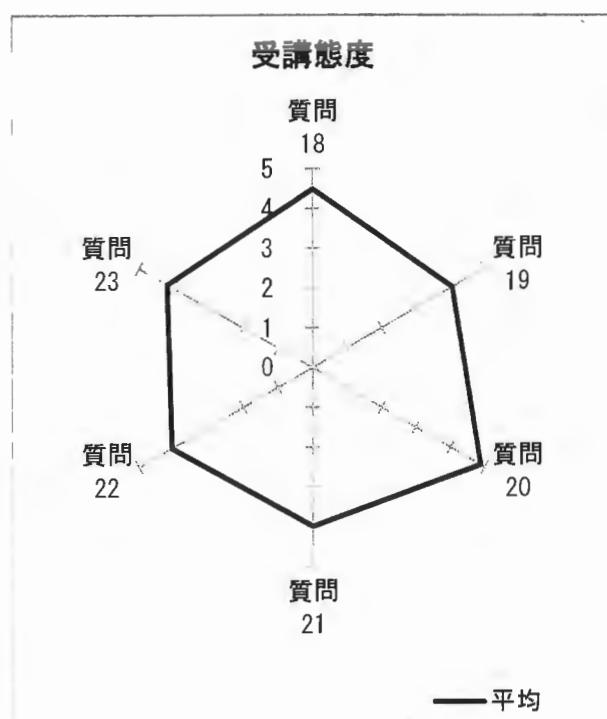
科目コード 964 (2017年度 前期)

看護学部 看護学科 中村 寿子 公衆衛生看護学方法論Ⅲ



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.2	4.3	3.7
質問 8	4.0	4.2	3.0
質問 9	3.9	4.1	3.0
質問10	3.8	4.1	2.7
質問11	3.9	4.2	2.7
質問12	4.0	4.1	3.7
質問13	3.8	4.0	3.0
質問14	3.9	4.1	3.0
質問15	3.6	3.8	3.0
質問16	3.5	3.6	3.0
質問17	3.8	3.9	3.3
平均	3.9	4.0	3.1

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.5
質問19	4.1
質問20	4.9
質問21	4.0
質問22	4.1
質問23	4.2
平均	4.3

- 質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
看護学部	看護学科	中村 寿子 濱里 セツ子	公衆衛生看護方法論Ⅲ	16名

2017年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

公衆衛生看護学実習前の演習科目として、実際の実習での健康教育や地域診断、家庭訪問の実習準備も兼ねて展開した。どの内容も、理論的なものは、公衆衛生看護方法論Ⅰ・Ⅱで押さえたため、どちらかというと実務的な作業が多かった。

授業評価は、平均3.9点、上位グループ平均4.0点、下位グループ平均3.1点であった。

上位グループで、3.6～3.9点と低いのは、授業の理解や関心・興味なので、実務的な内容が反映したのではないかと考える。下位グループで2.7点と低かったのは、「教材・器機・板書等の効果的な使用」や「教員の説明のわかりやすさ」であるので、実務的な作業に関する適切な目的説明や作業展開の説明に配慮が必要だったことが伺える。

II. 2018年度に向けての取り組み

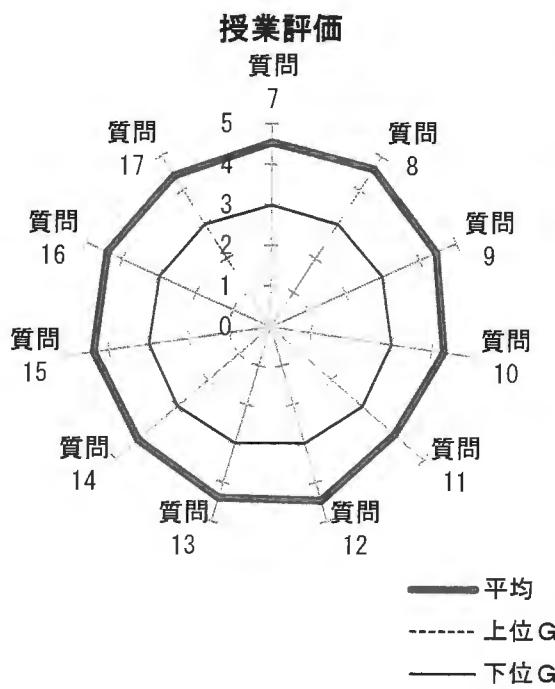
2018年度担当予定科目名：公衆衛生看護方法論Ⅲ

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

実習前の演習科目として、基本的な内容は変更しないが、実務的な作業の目的や作業展開の説明を丁寧にすることを努めたい。

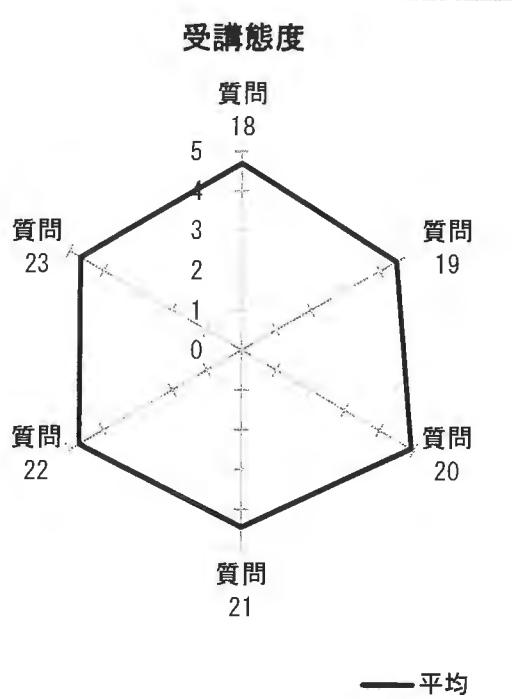
科目コード 966 (2017年度 前期)

看護学部 看護学科 堀川 新二 他 災害看護学



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.5	4.6	3.0
質問 8	4.6	4.7	3.0
質問 9	4.5	4.5	3.0
質問10	4.3	4.3	3.0
質問11	4.1	4.1	3.0
質問12	4.5	4.5	3.0
質問13	4.4	4.4	3.0
質問14	4.3	4.3	3.0
質問15	4.4	4.4	3.0
質問16	4.4	4.4	3.0
質問17	4.4	4.4	3.0
平均	4.4	4.4	3.0

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.7
質問19	4.5
質問20	4.9
質問21	4.4
質問22	4.7
質問23	4.7
平均	4.7

- 質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
看護学部	看護学科	堀川 大曲 阿部 藤岡 服部 山中 畠 井上 ^高 應戸 三浦 濱里	災害看護学	64名

2017年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

1. 授業評価について

質問7～17は、98.3～78.5%の学生が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えており、平均値は4.6～4.1であった。最も評価が高かったのは「質問8：教員の授業時間遵守」で平均値4.6、次いで「質問7：授業の目標説明とシラバスに沿った実施」「質問9：教員の話し方」「質問12：教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）」が平均値4.5であった。また、「質問11：教員の説明のわかり易さ」は最も低く平均値が4.1であった。授業は集中講義で、災害看護に関する総論と各論をそれぞれ講義を行い、その後、演習として事例を基に災害時要援護者に対する看護についてグループワークと発表を実施した。集中講義のスケジュールは事前に伝えて計画通りに実施できたこと、各講義・演習ごとにGIO・SBOを示して目標に添って実施できたことが今回の評価につながっていると思われる。看護学の各領域の教員が担当として関わり、各論では専門的な講義が行えた。しかし、グループワークではそれらの教員がグループに入って助言などを行ってもらったが、各教員の対応の差を学生が感じてしまったために「教員の説明のわかり易さ」の評価が低かったと考える。グループワークの後に発表を行い、その際に教員からのコメントで助言を行ったが、学修内容を補うための工夫が必要であったと思われる。今後は、3年次までの学修を統合できるように、事前学修から計画的に促し、講義演習での理解と、復習によりさらに学びが深まるように計画を立て、教員間でも担当した講義での様子などを共有していく必要がある。

2. 受講態度について

質問18～23は、100～92.9%の学生が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えており、平均値は4.9～4.5であった。「質問19：授業内容や到達目標を理解して受講していたか」が最も低く平均値4.5であった。授業評価では、目標説明がされていると評価しているものの、教員の説明のわかり易さが低かったことからも、目標達成が十分ではなかったと感じた学生が、授業内容や到達目標を理解できていなかつたと考える。

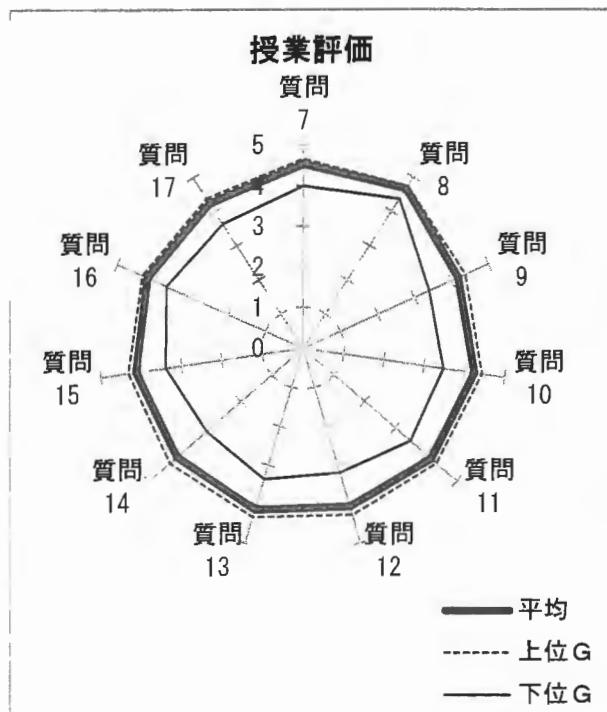
II. 2018年度に向けての取り組み

2018年度担当予定科目名：未定

統合分野として、今までの学修を関連づけて学修できるように、担当する教員が連携して取り組むことが必要である。他領域の講義内容も各教員が理解した上で関わることで、グループワークなどの際に効果的な助言につながると考える。

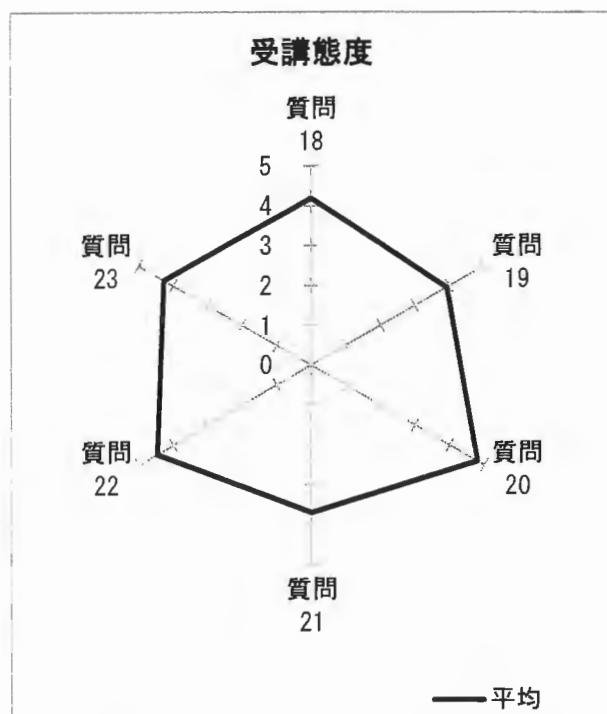
科目コード 967 (2017年度 前期)

看護学部 看護学科 永田 耕司 心理学



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.5	4.7	4.0
質問 8	4.7	4.7	4.4
質問 9	4.2	4.4	3.4
質問10	4.3	4.4	3.5
質問11	4.2	4.3	3.5
質問12	4.1	4.3	3.2
質問13	4.1	4.3	3.4
質問14	4.1	4.3	3.1
質問15	4.1	4.3	3.4
質問16	4.2	4.3	3.7
質問17	4.2	4.4	3.6
平均	4.2	4.4	3.6

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.2
質問19	3.9
質問20	4.8
質問21	3.7
質問22	4.5
質問23	4.3
平均	4.2

- 質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
看護・健康生活・文学・音楽学部	看護・健康生活・文学・音楽学部	永田 耕司	心理学	130名

2017年度前期授業評アンケート集計結果： 教員による分析・評価と次年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

心理学は看護1年生の必修の教養科目で、他学科は選択の教養科目である。今回は看護1年生に加え看護以外の健康生活・文学・音楽学部生の1年生130名を超える受講者であった。これまでの心理学は医療や看護など臨床現場での事例などを踏まえた授業を行っていたが、今年も看護以外の学生も多かったので、病院での臨床体験の事例をあまり入れられなかつた。最も高い点数が、質問8の教員の授業時間遵守で今年も4.7点（昨年 4.5点）と高得点であった。それ以外も4点台と高得点であった。最も低得点であったのが、質問11「教員の説明のわかりやすさ」、質問12「教員の授業環境に対する配慮」、14「学生の理解度の確認と授業への反映」で4.1点であった。受講学生数が多いので、授業環境に対する配慮が難しい。また、多くの学科の学生が受講していたので、看護以外の学生には理解が難しい点があったのかもしれない。より全般の学生への理解を深めていくために、よりわかりやすく説明していきたい。

心理学の学びの目標は、自己の心理の理解、及び他者の心理の理解である。よって今回、自分の学科以外の学生との交流や意見交換を行うために、隣は他学科の学生の配置をした。グループワークで話し合い、発表する形をとて、看護と看護以外の学生が交流できるような席配置を行つた。特別講演は、「麻耶様母より」というテーマで小坂先生に娘さんの闘病の課程や、「よりよい病院のための闘い」、及び貞松先生に「心を元気にする福祉」についての講話をしていただいた。感想文から多くの学びがあったようである。

心理の実践的活動での事例を紹介しながら授業を行つてはきているが、看護以外の事例なども用いながらわかりやすい授業を心がけていきたい。心理学は、患者さんとの関わりの中で、患者さんや家族の心理状態を理解するという意味で、基本的で重要な学問である。また、例年、患者や家族の心理の把握のため、実際の患者さんやご家族に特別講演として講話をしていただいている。講話に対する学生の感じるものも多く、引き続き、患者や家族の側からの講話をに行っていきたい。

また、心理状態の把握のために、事例をあげて具体的に考えてもらうようなグループワークを取り入れている。今年から、多くの学科の学生も受講した。様々な意見を取り入れるという視点から、いろんな捉え方があるということを理解できることに役立っていくとは考えられる。

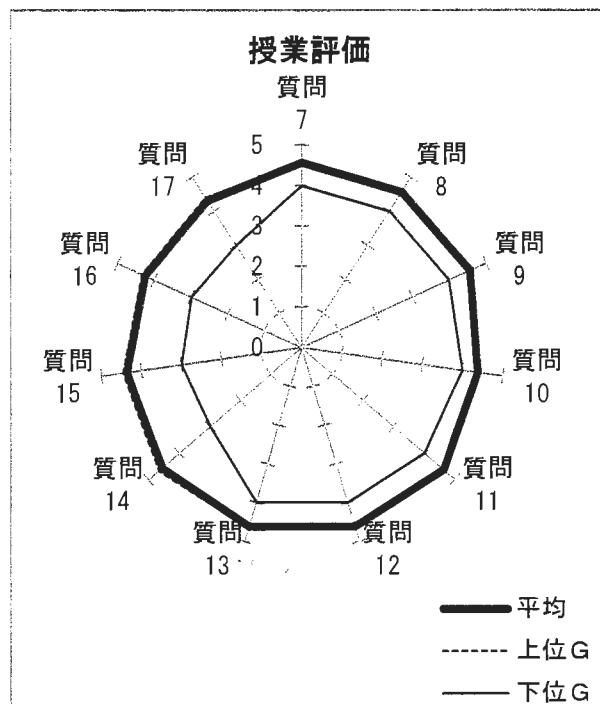
今回は、心理テストのコラージュ体験等を、学内カウンセラーの山口先生に行っていただいた。学生にとっては写真や絵の切り貼りの体験が楽しく、また自己の心理分析にもつながっていたようだ。学内カウンセラーとの交流にも繋がっていて、今後も学内カウンセラーによるコラージュ体験を継続して行っていきたい。

II. 次年度に向けての取り組み 2018年度担当科目名：心理学

学生にとって関心の度が高い、心理テストをやっていったが、今後も継続していきたい。次年度は大村での開講になる。看護以外の受講学生は東山手でのモニター見ながらの学習になる予定である。これまで看護と看護以外の学生の交流ができていたが、今後はできなくて残念である。この分野は、様々な実践の場で患者さんや家族、クライアントの心理を把握するための学問として重要であるので、さらに現場の実践をふまえた経験からの心理学の講義をしていきたい。

科目コード 968 (2017年度 前期)

看護学部看護学科 永田 耕司 公衆衛生看護活動論 II



質問項目	平均	上位G	下位G
質問7	4.6	4.6	4.0
質問8	4.6	4.6	4.0
質問9	4.6	4.6	4.0
質問10	4.4	4.4	4.0
質問11	4.6	4.7	4.0
質問12	4.6	4.7	4.0
質問13	4.6	4.7	4.0
質問14	4.6	4.7	3.0
質問15	4.4	4.5	3.0
質問16	4.3	4.3	3.0
質問17	4.3	4.4	3.0
平均	4.5	4.6	3.6

質問7：授業の目標説明とシラバスに沿った実施

質問8：教員の授業時間遵守

質問9：教員の話し方

質問10：教材・機器・板書等の効果的な使用

質問11：教員の説明のわかり易さ

質問12：教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）

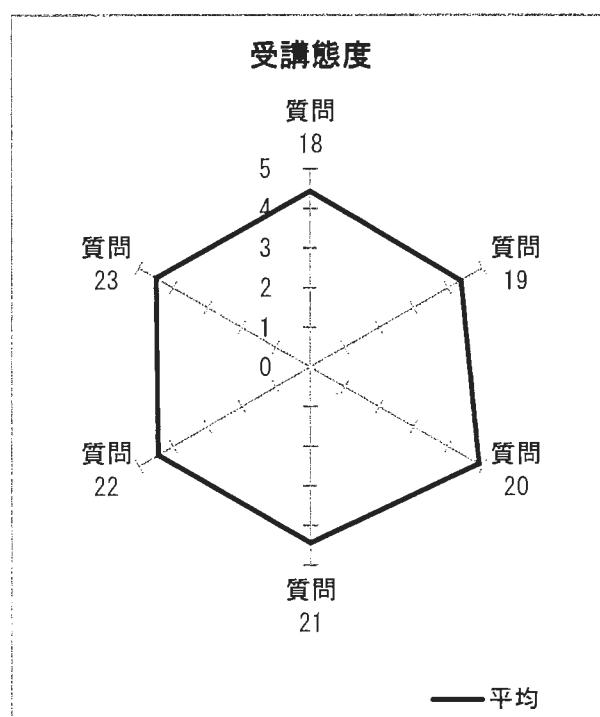
質問13：質問機会の確保と質問への適切な対応

質問14：学生の理解度の確認と授業への反映

質問15：（自分は）授業を理解できたと思うか

質問16：授業は興味・関心・意欲を引き出したか

質問17：新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.4
質問19	4.4
質問20	4.9
質問21	4.4
質問22	4.4
質問23	4.5
平均	4.5

質問18：（自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか

質問19：授業内容や到達目標を理解して受講したか

質問20：欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）

質問21：授業の予習・復習をおこなったか

質問22：レポート・課題等に積極的に取り組んだか

質問23：私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
看護学部	看護学科	永田 耕司 六角屋久美子 彌永 和美	公衆衛生看護活動論Ⅱ	16名

2017年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

産業保健と学校保健の2つの内容を、講義を中心に授業構成した。

授業評価は、平均4.5点、上位グループ平均4.6点、下位グループ3.6点であった。

下位グループの得点で低いのは、3.0点で「学生の理解度の確認と授業の反映」「学生自身の授業の理解・興味・関心・意欲」等である。上位グループで得点の低い項目はなかった。

産業保健については、後期実習との関連科目であり、基本的な知識が押さえられており、実習の到達度に効果的に影響したのではないかと考える。

II. 2018年度に向けての取り組み

2018年度担当予定科目名：公衆衛生看護活動論Ⅱ

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

基本的な授業構成は、今年度と同様の内容を周到する。

産業保健については、一部ゲストスピーカー等の活用を図り、学生の興味を引き起こしたい。